



“All are brothers.”～人類みな兄弟～

福祉教育主任 長野 彰伸

本校では、「ゆめに向かって、心豊かにたくましく生きる児童の育成」を学校の教育目標に掲げ、教育活動に取り組んでいます。福祉教育では、様々な立場や状況にある人々について知り、共に認め合い、支え合い、生きていこうとする実践的な態度の育成を目指し、児童の「豊かな心」を育みたいと考えています。

地域の様々な立場の人と関わる多くの体験は、児童が「様々な立場」を心と体で感じ、人間的なふれ合いを深め、共に生活し支え合う機会の広がりにつながります。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、地域の様々な交流活動が制限されてしまいました。そのような中で実践することができた、本校の取組を二つ紹介します。

～青少年赤十字登録式～

毎年、体育館で行われる青少年赤十字登録式。新型コロナウイルス感染症予防のため、今年度は校内テレビ放送で行いました。「誓いの唱和」や「空は世界へ」は、声に出さず、心の中で誓い、歌いました。署名は各教室で行いました。環境・ボランティア委員会からは、赤十字の活動は誰にでもできる活動で、自分が今、人のために何ができるかを考えて行動していこうという呼び掛けがありました。1年生も3学期にはバッジを胸に、青少年赤十字の一員として過ごしています。



～赤い羽共同募金～

毎年行っている赤い羽根共同募金。「何のために募金をするの?」「どうして羽根は赤いの?」ということを環境・ボランティア委員会で話し合いました。活動の意味を理解した上で、お昼の放送で呼び掛けたり、募金活動をしたりしました。全校児童や保護者の皆様のおかげで、13,081円の募金が集まりました。このお金は地域の福祉活動に使われます。ご協力ありがとうございました。



食ること、育むこと……

栄養教諭 平岡 佳織

湯山地区の特産品と言えば『筍（たけのこ）』。湯山小の中にも『たけのこ広場』や『たけのこ班』など、『たけのこ』と名の付くものがあります。毎年、3年生の総合的な学習の時間『ふるさと湯山を知ろう』で、湯山地区にあるたけのこ集荷場を見学したり、湯山の採れたての筍を料理して味わったり、『たけのこ』について調べたりしています。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で学校が臨時休業となり、筍の出荷時期を残念ながら逃してしまいました。しかし、地域の方のご協力により、筍を掘るところをビデオで、また、今年度採れた筍を瓶詰めにしたものをたくさん頂くことができました。その瓶詰めの筍を使い、3年生全員が料理を作り、湯山の筍の白くて柔らかくてえぐみの少ないという特徴を味わうことができました。今年度もふるさと湯山の筍学習を無事に実施することができました。湯山の筍の瓶詰めを使った「たけのこごはん」「たけのこのおかか煮」はとってもおいしかったです。ありがとうございました。



私の好きな俳句を紹介します。俳句の筍も味わってくださいね。

筍の 鋒(きっさき)高し 星生まる 中村草田男

土の中から掘り出した筍の芽は黄色い色をしています。もし、草田男が地中から掘り出す体験や、掘ったばかりの筍を見たことがなければ、この句に「星」は登場せず、「星が生まれる」という感性豊かな表現は存在しなかったかもしれません。

湯山のように自然に恵まれている土地だからこそ、そこで育つ子どもたちには、豊かな食・体験を通して様々なことを身に付け、湯山の筍のようにすくすく育ってほしいと願っています。

